



山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成 25 年度 展示テーマ『再生』

事業の経緯

当事業の前身は、平成22年度に山口大学埋蔵文化財資料館と梅光学院大学博物館との連携にて実施した『大学博物館連携第一弾 EXCHANGE! 山口大学』埋蔵文化財資料館 × 梅光学院大学博物館』である。事業目的は、両館の所蔵資料を交換展示することにより、両校の学生・教職員、そして地域市民が貴重学術資料に接する機会を創出すること、更に博物館の交流を介して山口市周辺市民に梅光学院大学の、下関市周辺市民に山口大学の広報を行うことであった。また会期中に「大学博物館の存在意義」を問い直し、MLA (博物館・図書館・文書館) 連携の必要性等を討論するシンポジウムを開催した。

平成22年度事業を終え、次年度の活動内容を検討していた平成23年3月11日、大地震が東日本を襲った。各種メディアによりもたらされる被災地の深刻な状況に対し、本州最西端にある大学博物館施設ができることは何か。辿り着いた結論は、「東日本大震災を遠方の山口県において過去の記憶としない」ための展示活動を行うというものであった。ただし、大学博物館2施設では活動も限定的とならざるを得ないため、両学の大学図書館との共同事業とし、更には山口県大学図書館協議会の協力の下、山口大学と梅光学院大学の他、徳山大学と山口福祉文化大学にも会場を提供いただき、県内4会場を巡る巡回展『風化させない記憶への一步～自然とともに～』を開催した。ここに山口県大学ML連携事業が誕生したのである。巡回展示は震災1年後の平成24年3月11日にオープンし、4会場巡回が終了したのは同年11月9日であった。

平成25年度は、山口県大学図書館協議会に加盟する大学図書館等に連携事業参加館を呼びかけ、一定期間テーマを共通とした学術資料展示を開催することとなった。その結果、9大学12館が参加を表明し、新たな山口県大学ML連携事業が展開されることとなった。その後会議等により、事務局を設置すること、テーマを「再生」とすること、開催期間を平成25年10月から翌年1月までとすること、事業のロゴマークを作成すること、スタンプラリーを開催し、達成者にオリジナルグッズをプレゼントすること等事業の詳細が定められていった。

次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告するが、以下に平成25年度の実施体制等を紹介する。

事業の実施体制

・主催

山口県大学ML連携事業事務局 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室内)

代表 吉光紀行 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室 室長)
企画担当 横山成己 (山口大学埋蔵文化財資料館 助教)
事務担当 大塚由希子 (山口大学情報環境部情報管理係 図書系職員)
下関地区担当 佐藤睦子 (梅光学院大学博物館 学芸員)

・参加館

宇部フロンティア大学短期大学部図書館 宇部フロンティア大学附属図書館
下関市立大学附属図書館 下関短期大学図書館 水産大学校図書館
梅光学院大学図書館 梅光学院大学博物館 山口県立大学附属図書館
山口大学図書館 山口大学埋蔵文化財資料館 山口東京理科大学図書館
山口福祉文化大学附属図書館 (50音順)

・共催

大学コンソーシアムやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会

事業詳細

・展示について

参加館は「再生」をテーマに大学が所蔵する学術資料・研究成果を素材として特色ある展示を構築する。

・開催期間について

事業開催期間は10月から1月までとする。参加館は最短でも1ヶ月の展示期間を設ける。

・スタンプラリーについて

会場に設置するスタンプは参加館が自ら用意する。サイズは3cm角以内とする。6館達成でオリジナルコットンバッグおよび各大学のグッズをプレゼントし、全館達成でオリジナル手ぬぐいをプレゼントする。

・山口県大学ML連携事業webについて

特別展のwebを山口大学大学情報機構web内に設置する。



展示広報用ポスター



スタンプラリーカードと6館達成プレゼントグッズ



全館達成でプレゼントするオリジナル手ぬぐい



ML連携事業web



宇部フロンティア大学 短期大学部図書館

『食・こころ・記録の再生』

【展示内容】

「食」：災害のなかで、命の再生を支えた「食」について、現地の実践活動も含めて展示します。

「こころ」：子どもの豊かな感性と創造性を呼び覚ます絵本を通して、「こころ」の再生を考えます。親子で絵本の世界を楽しんでください。

「記録」：情報機器の進歩は、膨大な人間の生活の記録を支えてきました。情報を記録し、再生するコンピューターの進歩を展示します。

【主な展示品】

学生考案の障害者用避難袋とその内容・絵本『ももたろう』の変遷
初期から現在までのパソコン機器

【観覧者数】

約 38 名

【関連事業】

11月7日(日)大学祭当日 「読む・つくる おはなしの部屋」
学生による絵本の読み聞かせとミニ絵本づくりの体験講座

【成果】

本学短期大学部の教育の歩みや各学科の特性について、来館者にアピールできました。特に、現在の情報化時代の先駆けとなった情報機器の展示は、情報リテラシーの教育の必要性を再認識することのできるもので、高校生なども強い関心を持っていました。

地域の子どもへの読み聞かせ、子ども文庫活動への理解の広がりなど学生にとっても、学習の機会となり、図書館に親しみを持てるようになりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

観覧者のために近隣地区の展示期間を調整する必要があると感じました。全館の観覧がより容易に達成できるように協力する必要があると感じます。

住 所：〒755-8550 宇部市文京町 5-40
電 話：0836-35-9511 (総務課)
e-mail：soumu@ube-c.ac.jp
<http://www.ube-c.ac.jp/index.html>
●開催期間：11月1日(金)～11月29日(金)
●開館時間：9時～18時
●休館日：土・日・祝日
※2日(土)・17日(日)は臨時開館



展示の様様



体験講座の様様



宇部フロンティア大学 附属図書館

『こころの再生 ・幸せになる力をひきだす』

【展示内容】

本学には「こころを育てる・こころを癒す」ための本がたくさんあります。「子どものための大学」コーナーでは子どもの心の発達を支える研究をパネルで紹介。「リラクゼーション」コーナーではアートセラピーやプレイセラピーを実践している様子を写真や実物で紹介します。

すぐに使えるカウンセリングから外国の珍しいセラピーまで様々なカウンセリングに関する本も紹介します。

【主な展示品】

カウンセリングの概要～実施解説パネル・関連書籍・つながるコラージュ

【観覧者数】

130 名程度

【関連事業】

10月27日(日)大学祭当日 13時～15時
ワークショップ「ストレス理解とリラクゼーション」

【成果】

本学の心理関係の研究や附属施設で実施するカウンセリングについて、パネルを通して来館者にアピールできました。一般の方にも展示書籍に触れながら過ごしていただく機会となり、観覧終盤に参加型展示(コラージュ)を用意したことで小さい子どもを連れた親子連れにも好評でした。事業に参加したことで、再度図書館の在り方について、教員、職員が再考するきっかけとなり、学生の図書館での学び、活動をさらに充実するために必要なことが再認できました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

ワークショップの内容、広報、日程を精査し、より参加しやすいものにしたと思います。本館は、開催期間が前半だったので、来年度は展示期間を長めに検討したいと考えています。

住 所：〒755-0805 宇部市文京台 2-1-1
電 話：0836-38-0524
e-mail：toshio@frontier-u.jp
<http://www.frontier-u.jp/index.php/a-library>
●開催期間：10月1日(火)～10月30日(水)
●開館時間：8時30分～17時15分
●休館日：土・日・祝日
※26日(土)・27日(日)は臨時開館



展示の様様



ワークショップの様様



下関市立大学 附属図書館

『再生～下関とくじら～』

【展示内容】

下関市にはかつて南氷洋捕鯨の基地がありました。過去の貴重な資料が散逸するのを危惧し、下関市立大学では「鯨資料室」を設置、関係資料の収集を図っています。今回は、附属図書館（学術センター）に展示されている資料とともに、下関と鯨との関わりについてのパネルを展示いたします。

【主な展示品】

イワシ鯨の骨格標本（頭部）・第二回南丸断面模型

【観覧者数】

不明

【関連事業】

10月19日（土） 鯨資料室シンポジウム（地域共創センター主催）

【成果】

学内外への本館の周知に繋がりました。また、事業担当者として他館を訪れるきっかけとなり、展示物とともに図書館内についても見学することができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

平日以外は閉館の会場が多く、近隣以外を回るには日程調整がむずかしいと感じました。

本学においては、今回の展示物は、別棟にある鯨資料室の関連資料でしたので、鯨資料室の紹介もできていればと感じました。

住 所：〒751-8510 下関市大学町 2-1-1
電 話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10月1日（火）～11月30日（土）
●開館時間：月～金 9時～21時30分
土・日 9時30分～17時
●休館日：祝日・館内整理日・大学祭期間



観覧風景



団体見学への展示解説模様



下関短期大学 図書館

『赤間関硯－伝統技術の再生と未来への意匠－』

【展示内容】

玉弘堂に伝わる赤間関硯の作品と資料展示をおこないます。

【主な展示品】

赤間関硯

【観覧者数】

167名

【関連事業】

なし

【成果】

他大学のML連携関係者以外、外部や他大学からの来館者は少数でしたが、本学園の生徒・学生に郷土の工芸品の歴史や歴代職人作品展示などを説明することができました。下関の歴史や工芸品に少しでも興味を持たせる内容で理解を深めることができたと感じます。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

図書館来館者数＝観覧者数なのか、純粹に赤間関硯を見るための来館者数のみを観覧者数としてカウントすべきかに迷いました。来年度は事前にカウント方法を決めておきたいと思います。スタンプラリーに関しては、達成者が少なかったため景品が多く余りました。事業に関する広報活動を充実すべきと感じました。

住 所：〒750-8508 下関市桜山町 1-1
電 話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimonoseki-jc.ac.jp/library.html
●開催期間：10月21日（月）～12月20日（金）
●開館時間：9時～17時
●休館日：土・日・祝日
※11月9日（土）・10日（日）は臨時開館



展示の様様



展示資料近景



水産大学校 図書館

『漁業の再生』

— 新たな水産産業を創造するための調査・研究の推進 —

【展示内容】

新興国の経済発展、健康ブームを背景に、世界的に水産物の需要が増大している一方で、我が国の漁業は、その生産が減少しているほか、漁業経営も悪化しています。かつてのような活力ある我が国の漁業を取り戻すために、本校では漁業生産や水産加工など多方面にわたる調査・研究を行っています。「漁業の再生」に向けて、我が国水産産業の明るい未来を感じさせる本校の最新の研究成果をご紹介します。

【主な展示品】

調査・研究成果のパネル
国際資源調査や国際協力にも用いられる本校漁業練習船の模型など

【観覧者数】

約 50 名

【関連事業】

なし

【成果】

「漁業の再生」をテーマとして、海洋生産管理・海洋機械工学・食品科学・生物生産・水産流通経営の5学科において行われている研究の成果の一端をパネル・練習船模型の展示にて紹介しました。山口県大学 ML 連携事業参加大学の関係者・本校学生・学生保護者・卒業生・水大への訪問者の方々が関心を持って観覧してくださいました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

水産大学校は交通の便が悪い場所にあるため、大学近辺の住民の方々に観覧していただくこと、学内のほか、近所のスーパーマーケット数軒に依頼して山口県大学 ML 連携展示のポスターを掲示してもらいましたが、大学近辺からの訪問者がほとんどおられなかったのは残念でした。「開かれた大学」を目指す上からも、学外からの訪問者を増加させる手立てが必要だと考えています。

住 所：〒759-6595 下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5111

e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp

http://www.fish-u.ac.jp/

●開催期間：10月1日(火)～10月31日(木)

●開館時間：9時～17時

●休館日：土・日・祝日

※12日(土)は臨時開館(10時～17時)



展示の模様



観覧風景



梅光学院大学 図書館

『図書館変わりますプロジェクト』

【展示内容】

梅光学院大学図書館は、2012年度より今の時代のニーズに合わせた図書館に生まれ変わるために、「図書館変わりますプロジェクト」と名づけてさまざまな改革を行ってきました。プロジェクトの主旨は、今回の山口県大学 ML 連携事業のテーマとも合致しています。そこで、今回の展示ではプロジェクトをパネルにしたものを館内各所に掲示し、シールラリーを実施しました。

【主な展示品】

「図書館変わりますプロジェクト」解説パネル 25 枚

【観覧者数】

記名者人数 35 名

【関連事業】

館内シールラリー 参加人数 11 名(記名者のみ)
実施期間：11月11日(月)～11月30日(土) 17日間

【成果】

シールラリーを実施しながら図書館内を回っていただくことで、参加者に本館の様子を知っていただけたことが最大の成果です。また、この約1年半の間に本館で行ってきた改革を、学内・学外に周知するきっかけにもなりました。オープンキャンパスで来校した方や一般利用でいらした地域の方へも、本館の活動をアピールすることができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

残念ながら、他大学の学生がほとんど参加していなかったもので、参加図書館・博物館同士の連携や広報のありかたをもっと考えなくてはならないと感じました。来年度のテーマにもよりますが、何を展示するか悩ましいところです。

住 所：750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1040

e-mail：library@baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/library/

●開催期間：10月29日(火)～11月30日(土)

●開館時間：9時～19時

●休館日：毎月1日・日曜・祝日



展示の模様



団体見学での学生による展示解説の模様



梅光学院大学 博物館

『藤山一雄の戦後・農山漁村 新生運動が伝えていること』

【展示内容】

2012年度山口県大学 ML 当館テーマ〈周東のヒヨコ〉の続編になります。大正期の梅光学院旧教員・藤山一雄が敗戦直後、中国東北部（旧満洲）から引揚げ、養鶏孵化場経営、そして山口県下での「農山漁村新生運動」を推進。雑誌『農山村文化』『新生運動』の執筆を通して、激動の時世を生きた藤山の「新生／再生」に関する資料群 40 点をご紹介します。

【主な展示品】

『村造り読本』藤山一雄自筆原稿、山口県農山漁村新生運動協会発行『新生運動』

【観覧者数】

764 名

【関連事業】

なし

【成果】

当館が継続する学術資料整理の進捗として展示公開できました。会期は3ヶ月間を2期に分け、前・後期通しての一般者リピーターが20名以上得られました。展示室を二分し、同時開催した他の展示会の来場者も山口県大学 ML 展を観覧していただきましたが、ML 連携事業そのものに関心を寄せた一般者も多く、認知度を高めたと思います。

特筆事項は市内近隣の大学間において、展示を見学授業に組み入れ、双方による見学訪問を行い、大学連携ならではの学生教育および交流の場を持つことができたことです。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

事前・公開中での広報活動の必要性を痛感しました。広報不足と来館者からも指摘を受けました。当館の場合、前回の広報と比べ、関係記事の投稿や web 更新回数が少なかったことも一因ではなかったかと思っています。

住 所：750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1
電 話：083-227-1070
e-mail：museum@baiko.ac.jp
http://www.baiko.ac.jp/university/museum/
●開催期間：10月29日(火)～1月31日(金)
●開館時間：9時～17時
●休館日：水・日・祝日、12月28日～1月4日
※11月3日(日)、4日(月)は臨時開館



観覧風景



団体見学での展示解説の様様



山口県立大学 附属図書館

『甦る桜園寺内文庫 ー収蔵資料に光をあてる』

【展示内容】

附属図書館には寺内家より移管を受けた資料を収めた文庫室があります。これは現在も建物が宮野駅前にある「桜園寺内文庫」に収蔵されていた資料で、主として宮野の宰相寺内正毅が収集したものです。この文庫は後に宮野村の公共図書館としての役割も果たしていました。今回の展示では、収蔵資料の中から中国の古典、明治期の小説、ハングルの訳が付いた、朝鮮で刊行された啓蒙書の三点を紹介します。

【主な展示品】

「絵本漢楚軍団」・「漢虚集」（夏目漱石著）・「三綱行実」

【観覧者数】

不明

【関連事業】

なし

【成果】

桜園寺内文庫の収蔵資料は、朝鮮関係のものが比較的知られていますが、それ以外にも日本の古典籍や戦前期の近代文学関係資料、宮野村民へ提供するために購入された資料など、あらゆる分野の資料2万点余りが収蔵されています。今回はそれらの一部に光を当てることが出来ました。また、本学の最寄り駅である JR 山口線宮野駅地域交流ステーションにポスターを掲示したことで、宮野地域の来訪者もあり、桜園寺内文庫の存在を地域に多少ともアピール出来たことが挙げられます。

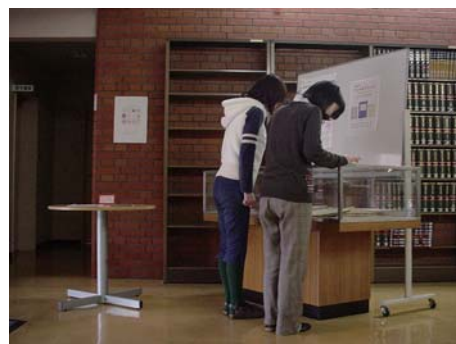
【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

初めての取り組みで準備不足の面もありましたが、学内をはじめとして、更なる PR の方策を講じる必要があると感じました。同時に本年2月末、寺内家より軸物や書簡等の追加寄贈を受けましたので、これらを含め引き続き資料の掘り起し、紹介をして行きたいと考えています。

住 所：〒753-8502 山口市桜島 3-2-1
電 話：083-928-0522
e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/library/ypulib/index.html
●開催期間：11月5日(火)～1月30日(木)
●開館時間：9時～19時
●休館日：土・日・月末・年末年始



展示の様様



観覧風景



山口大学 図書館

『図書館が繋ぐもの～本を未来へ～』

【展示内容】

山口大学図書館では、前身校から引き継いだものを含め約 160 万冊の本を所蔵しています。図書館の本は、様々な時代に、様々な人に活用されてきました。使われることによって、本は傷みます。大事に使われても、少しずつ弱り、時には破損することもあります。今回の展示では、江戸時代の漢籍や現代の図書等、図書館で行っている各種資料の修復活動について紹介します。

【主な展示品】

和装本・洋装本修復道具・『水陸路程』修復事業紹介パネル・破損本修復活動パネル

【観覧者数】

不明

【関連事業】

11 月 3 日 (日) 大学祭当日 ワークショップ「和装本・洋装本作成」

11 月 23 日 (土) ミュージアムトーク

【成果】

図書館が所蔵する貴重資料の修復事業や、水害によって被災した資料の再生事業について展示し、図書館で行っている資料の保存・継承事業について紹介しました。また、学生協働のWGで行っている資料の修復に関する取り組みを展示したことで、山口大学図書館の学生協働事業についても広く知っていただくことができたと思います。展示期間内に、観覧者からの資料提供等もあり、展示物の追加を数回行いました。展示内容を随時更新したこともあってか、本学の学生や教職員も頻繁に観覧していました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

当館では展示のアンケートを設置していなかったため、次年度は個別、または共通でアンケートを行うことによって、観覧者の意見を反映して次年度の活動内容の検討に活かしていきたいです。

住 所：〒753-8511 山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5177

e-mail：ootsuka@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp

●開催期間：11 月 3 日 (日) ～ 1 月 31 日 (金)

●開館時間：月～金 8 時 30 分～17 時 30 分

土・日・祝日 11 時 15 分～18 時 45 分

●休館日：年末年始



展示の様様



ワークショップの様様



山口大学 埋蔵文化財資料館

『博物館が繋ぐもの～遺跡を未来へ～』

【展示内容】

わたしたちの暮らしの中の「再生」について紹介します。「過去の再生」として、山口県内出土の滑石製品を用いて製作から廃棄、再利用の状況について解説します。また「現在の再生」として、山口大学 キャンパスで出土した木製品と金属器の保存処理と土器の復元を、さらに「過去へ&未来への再生」として、遺跡調査時の画像と現在の景観を対比した、過去へのタイムスリップと遺跡を未来に残していくことの意味を感じてもらえるよう展示を行います。

【主な展示品】

山口県内遺跡出土滑石製品・弥生土器・木製品・鉄製武器

【観覧者数】

305 名

【関連事業】

11 月 3 日 (日) 大学祭当日 ワークショップ「勾玉づくり」

11 月 23 日 (土) ミュージアムトーク

【成果】

展示内容の学術成果としては、(財)山口県埋蔵文化財センター、山口市教育委員会、防府市教育委員会、下関市教育委員会、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの協力の下、県内出土の中世滑石製品をほぼ網羅する展示を行うことができ、滑石製品の分布状況を確認することができたことです。

大学博物館は本邦において未だマイナー施設ですが、図書館と連携することにより、文字資料と同等に実物資料に価値があり、実物資料を収蔵・展示する施設が大学の研究教育に必要不可欠であることを、本学内に周知する一つのきっかけになったと思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

学生には大学間の移動手段がなく、他館に導くことができませんでした。次年度以降、何らかの工夫が必要と感じました。

住 所：〒753-8511 山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5035

e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp

http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryoukan.home/

●開催期間：11 月 3 日 (日) ～ 1 月 31 日 (金)

11 月 3 日 (日)・23 日 (土) は臨時開館

●開館時間：9 時～17 時

●休館日：土・日・祝日・12 月 28 日～1 月 4 日



ミュージアムトークの様様



ワークショップの様様



山口東京理科大学 図書館

『“再生”をキーワードに先導的 科学技術の開発まっしぐら』

【展示内容】

私達は、豊かで便利な暮らしを化石エネルギーの大量消費にゆだねてきました。その結果、自然環境の破壊と地球温暖化をまねき、高品質、高密度のエネルギーの安定供給を今後続けられるかは、極めて難しい状況にあります。人類の生き残りと再生をかけて、あらゆる分野で研究開発が進められています。“再生可能エネルギーの開発”“人類再生をかけた宇宙開発”“ウナギが語る地球環境変化”…。山口東京理科大学の研究の一端をご紹介します。

【主な展示品】

ウナギ型水中推進ロボット、山口東京理科大学の宇宙実験の紹介パネル、未来のエネルギー紹介パネル、科学技術関連書籍

【観覧者数】

不明

【関連事業】

なし

【成果】

本学教員の研究について、テーマに添って紹介しました。一般の方の来場は少なかったですが、本学の学生が見学しており、他学科の研究を知る機会になっていました。

また、山口県内の大学博物館、図書館が一緒になって実施することで、様々な展示を地域のみなさまに公開できたことが成果だと思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

各館の開催期間、開館日時に工夫が必要と感じました。また、スタンプラリーの達成館数の見直しも必要だと思います。この事業を学内外に広く周知するための方法を考えたいです。

住 所：〒756-0844 山陽小野田市大学通 1-1-1
電 話：0836-88-4512
e-mail：ylib@admin.tus.ac.jp
http://www.yama.tus.ac.jp/laboratory/library/
●開催期間：11月1日(金)～11月30日(土)
●開館時間：月～金 9時～20時
土 9時30分～17時
●休館日：日曜日・祝日



展示の様様



観覧風景



山口福祉文化大学 附属図書館

『あきらめない再生 ～機能回復への挑戦～』

【展示内容】

介護保険で利用できる「機能訓練専門デイサービス」が増えています。そこでは運動機能の回復を願って、介護認定者が日々、様々な機能訓練に取り組んでいます。毎日、笑いあり、感謝あり、友情あり。本展示では、その取り組みを写真とデータでご紹介します。

【主な展示品】

機能訓練デイサービス解説パネル・萩市集中豪雨災害写真パネル

【観覧者数】

34名(11月3日)

【関連事業】

11月3日(日) 大学祭当日 機能訓練実演・展示解説

【成果】

山口県内ではまだ開設されていない、機能回復訓練を専門に行っているデイサービスについて写真やデータで紹介しました。大学祭当日に図書館ロビーで行った展示解説・実演では、案内を本学独自で多方面に行ったことにより、県内の関係施設から多数来館され、実際の取り組みを体験後、専門分野からの質問も多数ありました。さらに、高齢者を中心として市民の参加も多く見られました。

また、萩市広報課に協力していただき、7月の萩市集中豪雨災害の写真展も開催することができました。被害地域以外の方にも災害の様子を知っていただき、本学のボランティア活動の取り組みも知っていただくことができたと思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

当館は参加館で唯一県北部に位置するためか、スタンプラリー参加者があまりいませんでした。土・日曜日が休館となる館が多いことも、観覧者が伸び悩む原因になっていると思います。

住 所：〒758-8585 萩市椿東浦田 5000
電 話：0838-24-4081
e-mail：library@hagi.ac.jp
http://www.hagi.ac.jp/crn05.html
●開催期間：10月7日(月)～11月15日(金)
●開館時間：8時45分～17時30分
●休館日：土・日・祝日
※11月3日(日)は大学祭のため開館・展示解説



展示の様様



機能訓練の実演風景

事務局の動き

平成 25 年

- 3 月 5 日(火) 平成 25 年度大学コンソーシアムやまぐち事業計画提出 (吉光)
- 19 日(金) 平成 25 年度山口県大学 ML 連携事業企画準備打ち合わせ (於：山口大学埋蔵文化財資料館 (吉光・横山・大塚)
- 月 25 日(木) 第 1 回山口県大学 ML 連携事業打ち合わせ (於：梅光学院大学博物館)
- 出席者：〈山口大学〉吉光・横山・大塚・石丸恵利子(情報環境部教務補佐員)〈梅光学院大学〉佐藤・前田紘子(図書館司書)
- 内容：展示テーマ、実施体制、実施期間、事務局の設置、関連事業の開催に関し協議
- 5 月 8 日(水) 徳山大学に事業説明 (吉光・横山・大塚 対応：河村敦夫 総務部長)
- 15 日(水) 「京都・大学ミュージアム連携」活動調査 (吉光・横山・佐藤 対応：京都工芸繊維大学 並木誠士 実行委員長)
- 17 日(金) 山口福祉文化大学に事業説明 (吉光・横山・大塚 対応：国広勝代 附属図書館長・藤本夏美 附属図書館司書)
- 21 日(火) 企画書打ち合わせ (於：山口大学埋蔵文化財資料館 (吉光・横山)
- 23 日(木) 山口県立大学に事業説明 (吉光・横山・大塚 対応：青木邦男 附属図書館長・町田敏一郎 附属図書館グループリーダー)
- 5 月 30 日(木) 山口学芸大学・山口芸術短期大学に事業説明 (吉光・横山・大塚 対応：三輪研一郎 図書館長)
- 31 日(金) 山口東京理科大学に事業説明 (吉光・横山・大塚 対応：鈴木康一 図書館長・茅壁猛幸 学生支援担当課長・吉村真由美 主任)
- 6 月 3 日(月) 宇部フロンティア大学に事業説明 (吉光・横山・大塚 対応：松本治彦 附属図書館長・久田博 総務課長・日野秀俊 主査)
- 12 日(水) 下関 5 大学事務担当者 WG(図書館連携)へ事業説明 (佐藤 対応：山田麻奈美 下関市立大学経営企画グループ)
- 13 日(木) 山口県大学図書館協議会幹事会にて事業説明 (於：下関市立大学 (吉光)
- 19 日(水) 大学コンソーシアムやまぐち運営委員会にて事業説明 (於：山口大学 (吉光)
- 26 日(水) 下関市立大学図書館、東亜大学附属図書館、下関短期大学図書館に事業説明 (佐藤 対応：篠田知宏 下関市立大学経営企画グループ図書班長・縄田年弘 東亜大学附属図書館主任司書・堀尾昇平 下関短期大学図書館長)
- 27 日(木) 山口県大学図書館協議会にて事業説明 (於：山口県立大学 (吉光)
- 7 月 3 日(水) 水産大学校図書館に事業説明 (佐藤 対応：中里靖 企画情報部長・川崎潤二 企画調整役・高本孝子 図書係)
- 26 日(金) 第 1 回合同事業説明会開催 (山口地区・宇部地区) (於：山口大学第 2 テレビ会議室)
- 出席者：山口東京理科大学：吉村、山口福祉文化大学：藤本 (吉光・横山・大塚
- 内容：参加館および企画書、ロゴマークとスタンプラリー達成プレゼント、予算、今後のスケジュールを協議
- 31 日(水) 第 2 回合同事業説明会開催 (下関地区) (於：梅光学院大学フィニッシングルーム)
- 出席者：下市大：篠田、下短大：高杉志緒 准教授、宇フ大：日野、宇フ短大：久田、水産大：川崎、梅光大：倉本昭 学術情報センター長
- (吉光・横山・佐藤
- 内容：参加館および企画書、ロゴマークとスタンプラリー達成プレゼント、予算、今後のスケジュールを協議
- 8 月 20 日(火) 山口県図書館協会へ後援依頼 (於：山口県立図書館 (吉光)
- 29 日(木) 特別展ポスター・スタンプラリーカード発注 (横山
- 9 月 2 日(月) 山口県博物館協会・大学博物館等協議会へ後援依頼 (横山
- 21 日(土) 県央部・北部の道の駅 13 施設にポスター、スタンプラリーカードの配置依頼 (吉光・横山
- 24 日(火) 関係機関へポスター・スタンプラリーカード発送作業 (於：山口大学埋蔵文化財資料館 (吉光)
- 26 日(木) 下関地区の道の駅 3 施設にポスター・スタンプラリーカードの配置依頼 (佐藤
- 10 月 2 日(水) 3 日(木) 事務局より景品グッズ預かり、下関地区参加館 3 大学へ訪問配布 (佐藤
- 10 月 4 日(金) 特別展広報打ち合わせ (於：山口大学埋蔵文化財資料館 (吉光・横山)

平成 26 年

- 2 月 7 日(金) 参加館事業報告書提出〆切・集計 (吉光
- 12 日(水) 平成 25 年度大学コンソーシアムやまぐち事業報告書・平成 26 年度大学コンソーシアム山口事業計画書提出 (吉光
- 19 日(水) 平成 25 年度山口県大学 ML 連携事業報告会事前打ち合わせ (於：山口大学埋蔵文化財資料館 (吉光・横山)
- 21 日(金) 平成 25 年度山口県大学 ML 連携事業報告会 (於：山口大学第 2 テレビ会議室)
- 出席者：宇フ短大：久田、宇フ大：日野、下市大：篠田、水産大：高本、山県大：町田、梅光大：倉本 (吉光・横山・大塚・佐藤
- 内容：各館事業報告、問題点の検討、来年度の事業展開、展示テーマを協議
- 3 月 11 日(火) 徳山大学に事業報告・次年度参加要請 (吉光・横山 対応：河村敦夫 総務部長・中村道陽 総務部次長)
- 12 日(月) 東亜大学に事業報告・次年度参加要請 (吉光・横山 対応：北村章 附属図書館長・縄田年弘 附属図書館主任司書)
- 17 日(水) 山口学芸大学・山口芸術短期大学に事業報告・次年度参加要請 (吉光・横山 対応：三輪研一郎 図書館長・秋山仁美 図書館司書)
- 未定 山口県大学図書館協議会幹事会にて事業報告 (於：山口大学図書館グループ学習室 (吉光)

平成 26 年度の活動予定と実施体制

・展示について

参加館は「発見」をテーマに大学が所蔵する学術資料・研究成果を素材として特色ある展示を構築する。開催期間中の関連事業については各大学で調整を行う。

・開催期間について

平成 26 年 10 月から平成 27 年 1 月までとする。参加館は最短でも 2 ヶ月の展示期間を設ける。スタンプラリー参加者のため、各ブロックで開催期間の調整を行う。

・山口県内ブロックの設定

連携事業参加館の連絡調整を効率化するため、県内を 3 ブロックに分けて、事務局の連絡調整館を設置する。

下関地区：下関短期大学、下関市立大学、水産大学校、梅光学院大学

宇部地区：宇部フロンティア大学短期大学部、宇部フロンティア大学、山口東京理科大学、山口大学医学部・工学部

山口萩以東区：山口県立大学、山口大学、山口福祉文化大学(平成 26 年度より至誠館大学に改名)

・スタンプラリーについて

引き続き実施する。景品に関しては平成 25 年度に大量に在庫を抱えたため、同じ品を利用する。達成館数を変更し、オリジナルコットンバックを 4 館達成者に、オリジナル手ぬぐいを 8 館達成者にプレゼントする。大学グッズに関しては改めて調整する。

・広報

平成 25 年度同様、ポスターとスタンプラリーカードを主体とするが、参加館がコミュニティー FM 等地域のマスメディアに積極的に働きかけることとする。スタンプラリーカードのサイズについて再検討を行う。

山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成 25 年度 展示テーマ『再生』

山口県大学 ML 連携事業 web <http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集】

山口県大学 ML 連携事業事務局
(情報環境部学術情報基盤整備室内)
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話 083-933-5192
e-mail li322@yamaguchi-u.ac.jp

【発行】

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話 083-933-5035
e-mail yuum@yamaguchi-u.ac.jp
web <http://yuum.oai.yamaguchi-u.ac.jp/>

2014.3.31